第10号

中部品質管理協会会報

Central Japan Quality Control Association

2013.11発行

「モノづくりは、人づくり」

高野精密工業のタカノ・シャトー（1957）
（現：リコーエレメックス㈱）

高野精密工業（1938年設立）は1957年に独自設計の薄型ムーブメントを搭載した世界一の薄型腕時計タカノ・シャトーを発売開始した。

1959年の伊勢湾台風で壊滅的被害を受けた高野精密工業はリコーの再建支援を受け、1962年、リコー時計（現在の社名リコーエレメックス）に社名変更した。

「タカノ」ブランドの腕時計は5年弱の市場販売だったことから、幻の時計メーカーと呼ばれている。

リコーエレメックスの精密機器（高精度部品ユニット、産業機器等）製品は、タカノ・シャトーの設計/製造で培われた精密部品加工技術・精密組立技術をベースに進化させたものであり、リコーエレメックスのもの作りの原点となっている。

◆内容◆

1　巻頭言　㈱三五　代表取締役社長　恒川幸三　氏
2　中部“質創造”マネジメント大会２０１３　実施報告
3　協会だより（受講生の声、品質ＳＡＩＫＯＵ）

『ピカピカ80（はちまる）』グローバル展開を目指して

株式会社　三五
代表取締役社長　恒川 幸三

わが国の景気は昨年末を底に回復傾向が持続し、アベノミクスのプラス効果が実体経済に徐々に波及してきました。一方、自動車をはじめ製造業は、堅調であるものの、コストの安い海外での現地生産化が急速に進んでおり、消費税率引き上げによる駆け込みなど一時的な増産などを除けば、今後、国内生産は減少傾向と言われています。

自動車部品と鉄鋼二次製品を生産している当社も、この厳しい経済環境を生き抜く強い企業体質をつくるため、創業八十周年を迎えた2008年にこれまで培ってきた風土を基本理念として制定しました。

【基本理念】“ 公正と誠実な行動、強い団結力と相互信頼の醸成を通して、ひとづくり、ものづくり、環境づくりを実践し、これらの調和を通じて、全ての国や地域の発展に貢献し、豊かで住みよい社会の繁栄に努めます ”

この基本理念をベースに80周年を機に「ピカピカ80（はちまる）」活動を開始しました。
主な取り組みは三つあり、

一つ目は「毎日ラインをピカピカ」にし隠れた欠陥を見つける自主保全、

二つ目に「やり難い作業の洗い出し」による働きやすい作業環境整備、

三つ目は「原理原則に拘った加工点解析」による加工点の可視化とそれによる問題の真因追究です。
こうして見つかった問題は各職場のＱＣサークルに取り上げられ、メンバーで知恵を出し合い一つひとつ解決しています。更に職制と一体となって「からくり」を使った仕掛けの考案も活発になっています。

スタートして五年経った現在、設備故障による保全マンの出動件数が1/10に減少し、生産性が向上したほか、標準作業どおりに生産できることから「災害ゼロ」「工程内不良ゼロ」「設備故障ゼロ」のラインが増えてきました。またこの問題を見つけて改善するプロセスを実践することが作業者の改善意識の向上に繋がっています。

これからの車は、安全や環境そしてユーザーのさまざまな要求に応えるべく変化し、その変革スピードも予想以上に早くなっています。ただ、ものづくりに重要な「問題を見つけ、徹底的にムリ・ムダ・ムラを省く」という考え方は今後も変わるものではありません。やり難い作業を無くし、複雑な設備に頼らずシンプルな仕掛けにすることにより、設備故障の無い生産ラインができ、生産性や品質も向上します。

ピカピカ80活動は地道な活動ですが、当社の誇れる文化であり、この文化を価値観の異なる海外でグローバルに展開したいと考えています。そのためにはピカピカ80活動を継続、発展させていくのと同時に、今後は海外生産が加速する海外事業体にも言葉の壁を超えて展開していかねばなりません。

この厳しい時代だからこそ、日本の製造業が世界で生き残るために、私たち日本の製造業はさらに知恵を絞り、今後も品質改善に磨きをかけていく必要があると考えています。

10/23『中部“質創造”マネジメント大会 2013』実施報告

【大会概要】先日 10 月 23 日に日本規格協会名古屋支部と初めて共催で、マネジメント大会を実施。

第Ⅰ部「標準化と品質管理中部地区大会」、第Ⅱ部は「中部“質創造”マネジメント大会」とわけて、当協会は第Ⅱ部を主体に企画・運営。

第Ⅰ部、第Ⅱ部のプログラムを以下記載。

【第Ⅰ部】標準化と品質管理中部地区大会 2013
大会主催者挨拶：中部品質管理協会　会長
大会主催者講演：一般財団法人日本規格協会　理事長
特別講演：経済産業省 産業技術環境局 基準認証政策課長 土井良治氏 「標準化の動向とビジネスモデル」
講演：三菱航空機株式会社　執行役員　チーフエンジニア 技術本部長　　岸　信夫氏 「国産民間旅客機ＭＲＪの開発－世界の空へ－」
【第Ⅱ部】中部“質創造”マネジメント大会 2013
基調講演：建築家　黒川 雅之氏 「Super Quality_超品質はあるか」
講演：東海旅客鉄道株式会社　執行役員 中央新幹線推進本部　リニア開発本部副本部長 寺井 元昭氏 「超電導リニアによる中央新幹線計画の推進」
特別講演：一橋大学　名誉教授　野中 郁次郎氏 「イノベーションを持続する機動力経営」

会場は、ウインクあいち大ホール。当日は 400 名余りの御参加をいただき、心より感謝申し上げます。

当日の講演の中から、注目度の高かった 2 つの講演について、特に内容を紹介させていただきます。

黒川雅之氏講演

最初にレオナルド・ダ・ヴィンチの人間の図を示し、大地という**「産業」**に立ち、右手に**「芸術」**、左手に**「技術」**、頭には**「文化・思想」**を据えて、常にデザイン価値をこの図式でイメージし、製品デザインだけでなく、市場創出、販売方法から創造してゆく重要性を様々な事例とともに説かれた。 その上で、本講演で提案する**「超品質」**とは、フィジカルな品質のみでなく、**かもしだす「気配」**のような要素、人間であるが故の**偶然性が生み出す「あいまい」や「願望」**をも含んだ**皮膚感覚**であり、これからのものづくりはこの**「超品質」の時代**に入ってきたと、聴衆に視点の変換を促された。

野中郁次郎氏講演

冒頭、日本企業のグローバルプレゼンスの低下は、欧米流経営の過剰適応で自らの立ち位置を見失ったゆえであり、**「虚業から実業へ回帰すべき＝実践知経営」**と指摘。

実践知ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟを高める６つの能力を提示し、特に①「善い」目的を作る能力と⑥実践知を組織化する能力の重要性を説かれた。日本的経営は、かつてこれらを網羅していたが、今は能力低下し、再興の時期である。**今、一番参考にすべき組織体として『米国の海兵隊』をあげ、「めざすべきは“身体化された心”をもつ、“知的体育会系”だ」**と締めくくられた。

５０年近くにわたり、そして今も世界の第一線で活躍されているプロフェッショナルのお二方が、いずれも**「身体的感覚」を養うことを最優先に上げている**点が大変印象深い大会となりました。

協会だより

本年度、従来のベーシックコースを一新した「品質管理総合セミナー」（2013年6月4日～8月22日開催【計14日間】）に受講頂いた方の声を掲載します☆

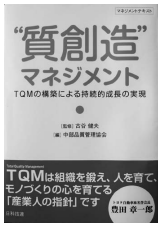
“本セミナーを受講することによって、SQC各種手法を理論から実践まで幅広く習得することができ、管理技術の向上に繋がりました。これまでトヨタ社内での各種教育も受けてきましたが、社内では即実践活用のためにソフトを利用した解析に頼ってしまうこともあり、結果を鵜呑みにしてしまう危険性があったことに今回気づかされました。下記観点から、トヨタでは初級～中級コースを受講するレベルの設計・品質管理担当者にとって有益なセミナーであると考えます。

・大学、企業からの専門家講師なので、学術的・実践的両目線で学べる
・ソフトに頼らない解析能力が身につく
・解析結果に対する信頼性を判断するセンスが身につく

トヨタ自動車㈱本社工場品質管理部　主任　堀田　浩也

furuyaの品質SAIKOU

「“質創造”マネジメント」発刊に寄せて



去る9月26日に中部品質管理協会編「“質創造”マネジメント」と題したマネジメントテキストを日科技連より発刊した。多くの関係者のご理解、ご支援により、早くも第3刷の発行が決定されている。

発刊に至った背景について、トヨタ自動車の豊田章一郎名誉会長は、最近のデミング賞受賞企業のほとんどが海外企業であることに対して、「どうしてＴＱＭが普及しないのか、日本企業はもっとＱＣの勉強をしなければならない。」と常日頃言われている。

ところがその一方で、ＴＱＭに関する企業向けのテキストがなく、各種ＴＱＭセミナーでは講師が自らの経験を基に、それぞれパワーポイントを作成して講義をしているのが実情である。

筆者は、こうしたモヤモヤを抱えながら、2011年に中部品質管理協会の企画委員長を拝命した。

その直後、(株)デンソーの元会長である故髙橋朗氏の「質創造」に巡り合うことになった。まさに天の啓示と思い、企画委員会で経営の目指す姿を整理した。

これが出発点となり2012年の年初よりほぼ毎月、愛知県中小企業診断士協会の有志による会合が開催され、本書の内容がまとまっていったのである。

「質創造」実践のための道具として、ＴＱＭを有効に活用することで、企業の持続的成長が可能となる。

さらに、製造業に限らず、様々な分野にＴＱＭが適用されることを期待したい。日本の成長に少しでも貢献できればと願っている。

[編集後記] 10月は季節外れの台風に毎週見舞われましたが、11月に入った途端、すっかり秋が深まりました。しかし、ここからはゆっくりと紅葉を楽しむ間もなく、師走、クリスマスへと忙しく日々が過ぎてゆくような…皆様にはお元気で素敵な日々を☆（細）

（発行元）

中部品質管理協会
〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル11階
TEL（052）581-9841　　FAX（052）565-1205
http://www.cjqca.com